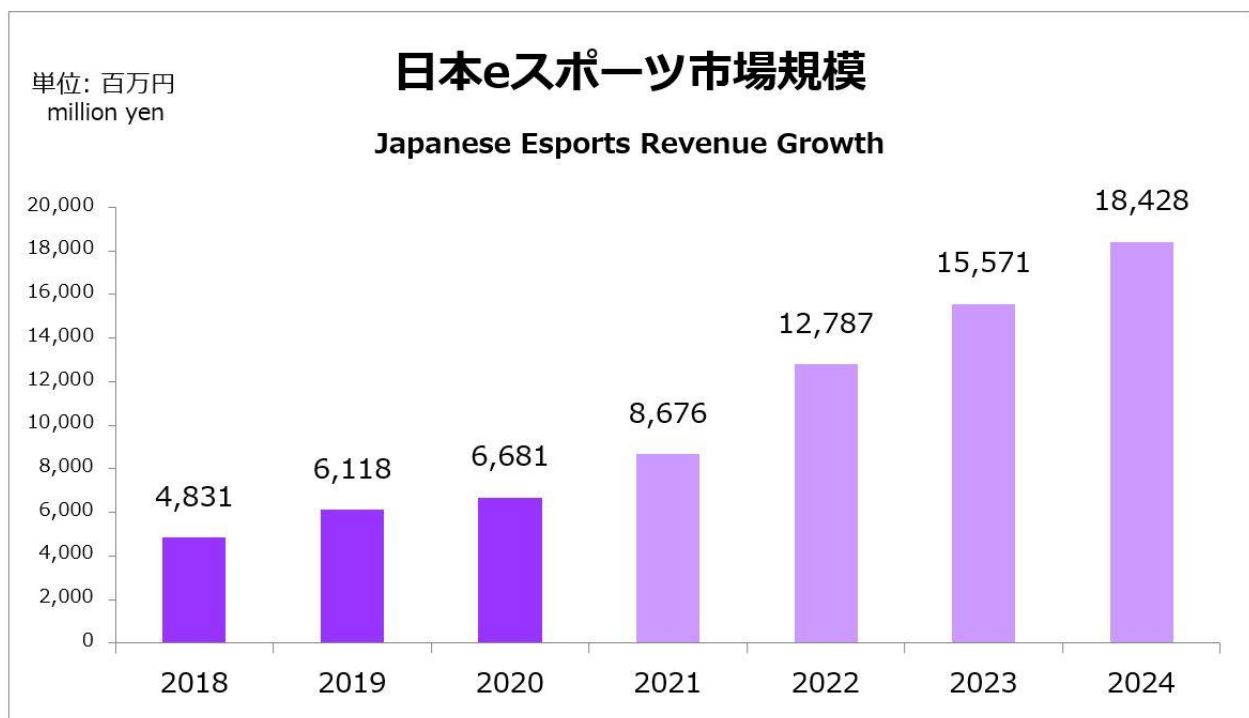


## 2020年日本 e スポーツ市場規模は 66.8 億円。

2024年には180億円超に拡大と予測。

ゲーム総合情報メディア「ファミ通」は、日本国内における e スポーツ市場動向について、2020年の市場規模および内訳、2024年までの成長予測、ファン数(試合観戦・動画視聴経験者)の推移を発表いたします。

### ◆ 2020年国内 e スポーツ市場規模は前年比 109%の 66.8 億円に。



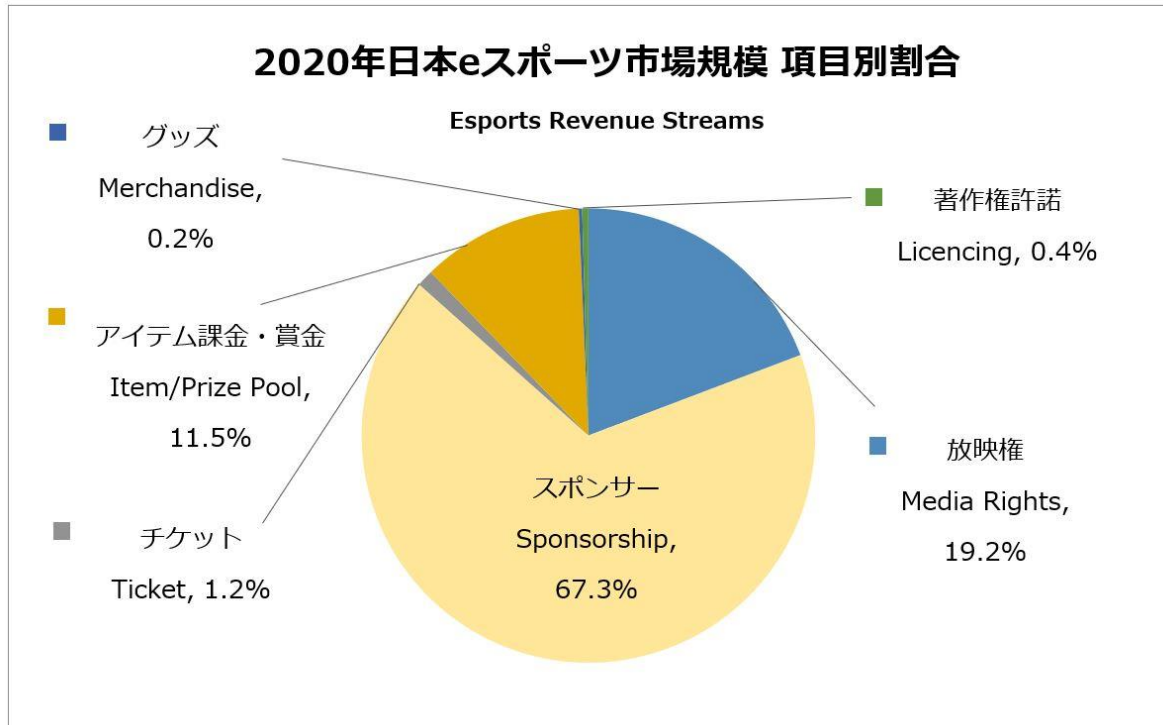
出典:ファミ通

※2021年以降の数値は、2021年4月時点での予測

2020年の日本 e スポーツ市場規模は、前年比 109%の 66.8 億円となりました。「VALORANT」登場による e スポーツタイトルのラインナップ強化、「Shadowverse」、「PLAYERUNKNOWN'S BATTLEGROUNDS (PUBG)」、「レインボーシックス シージ」、「League of Legends」といった人気タイトルのオンライン大会開催により、市場拡大が続きました。

また、本調査では、2020年から2024年までの年間平均成長率は約 29%と予測しました。e スポーツリーグブランド「X-MOMENT」発足や、モバイルゲーム e スポーツの勃興、e スポーツファンの増加、オンライン大会および e スポーツ施設でのオフライン大会の定着、他メディアからの広告流入がおもな伸長の要因となっています。

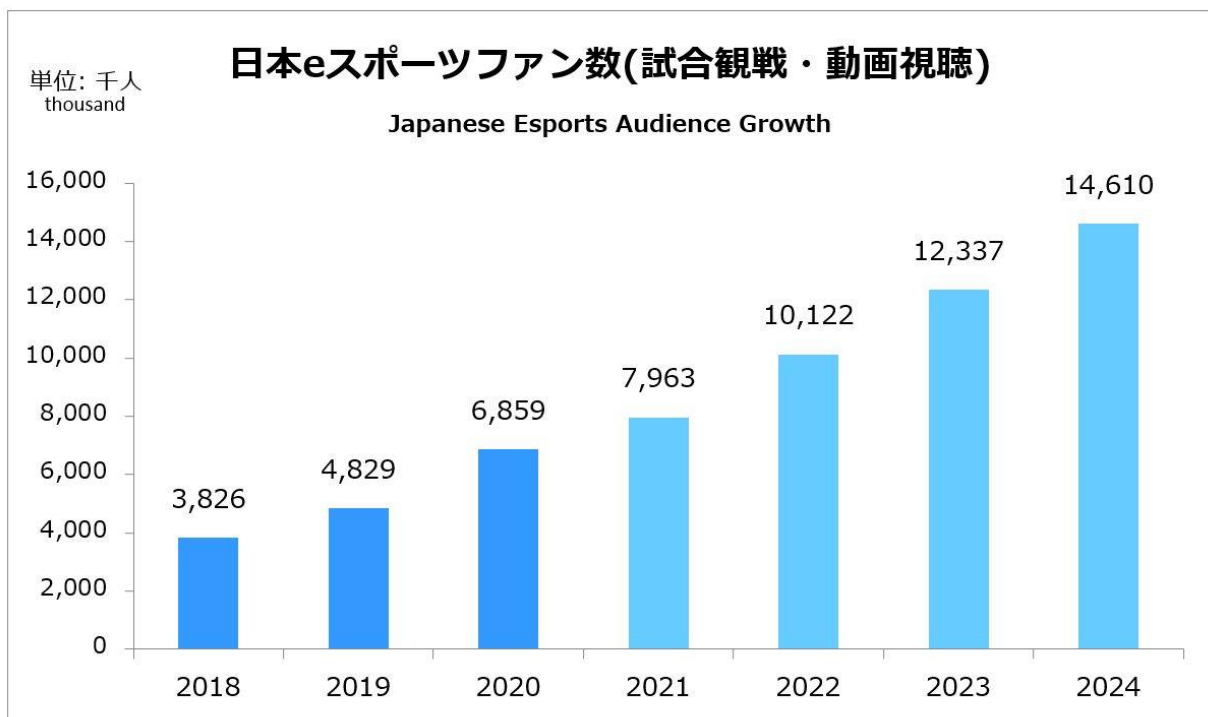
◆ 2020年日本eスポーツ市場の約7割を「スポンサー」が占める。



出典：ファミ通

2020年時点での日本eスポーツ市場の収益項目別割合をみると、前年同様、チーム・大会へのスポンサー料や広告費といった「スポンサー」の割合が多く、全体の67.3%を占めています。また、大会やイベントのオンライン移行によりチケット収入が減少した一方、大手配信プラットフォームの躍進により放映権の売買金額が上昇し、放映権が前年から約2.5倍の19.2%となりました。

◆ 2020年日本eスポーツファンは686万人に。2024年には1461万人まで成長。



出典：ファミ通

※2021年以降の数値は、2021年4月時点での予測

2020年の日本 e スポーツファン数(試合観戦・動画視聴経験者)は前年比 142%の 686 万人となりました。巣ごもり需要を背景に、大会やイベントのオンライン化による配信数および視聴時間の増加に伴ってファン数も増加傾向にあります。

※本データを記事などに使用する場合は、出典が「ファミ通」である事の明記をお願いします。

※本調査データは、KADOKAWA グループのシンクタンクである角川アスキー総合研究所が調査し、KADOKAWA Game Linkage に提供しています。

※本調査データは、角川アスキー総合研究所が実施したユーザー調査をベースに、e スポーツ関連各社の決算など公開されている各種情報から、市場規模等を分析したものです。

#### ◆ファミ通について



ファミ通グループでは、ゲーム総合誌「週刊ファミ通」(毎週木曜日発売)をはじめとするファミ通各誌、「ファミ通.com」や「ファミ通 App」といったゲーム情報サイトなど、様々なサービスを展開しています。また、電子出版事業にも積極的に取り組み、「週刊ファミ通」電子版や、ゲーム攻略本・設定資料集の電子書籍を多数配信しています。

<https://www.famitsu.com/>

#### ◆株式会社 KADOKAWA Game Linkage について



株式会社 KADOKAWA Game Linkage(代表取締役社長:豊島秀介)は、株式会社 KADOKAWA の 100%子会社です。『ファミ通』『ゲームの電撃』ブランドをはじめとする情報誌の出版、Web サービス運営、動画配信といったゲームメディア事業を展開しています。そのほかイベント企画や e スポーツマネジメントなど、ゲームにまつわるあらゆる分野で新しい価値の創出に挑戦。ゲームとユーザーの熱量を高め、ゲームの面白さや楽しさをさらに広げてまいります。

公式サイト URL: <https://kadokawagamelinkage.jp>

#### ◆株式会社角川アスキー総合研究所について

### 角川アスキー総合研究所

KADOKAWA ASCII Research Laboratories, Inc.

角川アスキー総合研究所は、KADOKAWA グループに属する法人向けのシンクタンク、リサーチ・メディア企業です。

KADOKAWA グループの持つコンテンツ力、メディア力、リサーチ力に関する技術力を活かし、日本のメディア・コンテンツ産業に貢献すべく、課題となる重要テーマに日々取り組んでいます。

公式サイト URL: <http://www.lab-kadokawa.com>